



# AUE News

2011年8月1日

第 21 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



## 目次

- 行事予定(8月1-15日)
- トピックス
  - ・学内にアート作品
  - ・インドネシア・ジョグジャカルタ大学と共同国際セミナー
  - ・陸上部中野さん・堂之下さんに学長表彰
  - ・ひらめき☆ときめきサイエンス
  - ・トヨタ自動車見学
  - ・天文台一般公開
  - ・小中英語教育講演会シンポジウム
  - ・池の清掃
  - ・ドライミスト設置
  - ・花壇の整備
  - ・夏のランチコンサート
  - ・キャンパストーク
  - ・キャンパスクリーンデー
  - ・第2回ポイ捨て防止アクション
  - ・オープンキャンパス
- 愛教人インタビュー
  - ・ユニバーシアード出場の中野弘幸さん
- お知らせ・報告・投稿
  - ・催しもの案内

## 行事予定(8月1-15日)

- 3日(水) 大学改革推進委員会 (15:30～ 第三会議室)
- 4日(木) 教育研究基金委員会 (12:45～ 第三会議室)  
顧問会議と経営協議会との合同会議 (15:00～ KKRホテル名古屋)
- 10日(水) 附属学校の安全対策に関する研修会 (13:00～ 第一会議室)  
リベラルアーツ講演会 (15:00～ 大学会館小集会室)
- 12日(金) 大学一斉休業 (16日まで)

## トピックス

### 学内にアート作品出現(7/14、21)



池に巨大な抹茶茶碗が出現！ 生協に癒しの「あひらの隠れ家カフェ」がオープン！ ベンチがジャンボサイズの板チョコに変身！—と7月14日(木)、21日(木)午後、学内のあちこちにユニークなアート作品がお目見えした。

作品は、美術科の加藤マンヤ講師が指導する2年生32人が公共の場に展示する「パブリックアート」について学ぶために創作。各日16人が制作し、展示したもの。「場に依存したアート」をテーマに、学生たちが各々学内の興味を持てる場所を探して、その場の意味と作品とを関連させて発表した。

14日は、附属図書館前の池周辺に肩に手ぬぐいを掛けた裸婦像と張りぼての富士山、せっけんやシャンプーを置くことで銭湯のシチュエーションに



見せる作品、水草の浮く自然科学棟前の池に発砲材や針金などでできたジャンボな茶碗と茶筌を設置してジャンボ抹茶茶碗にしてしまった作品、生協内のカフェスペースの椅子をアヒルのくちばしに見立てて癒し系のカフェにした作品、樹木と人間がオセロで勝負することで自然と人間が対峙する様を表現する作品など様々。

学生たちは、その場にふさわしいアイデアをこらして制作するだけでなく、公共の場である学内



各所に作品を設置するために、施設の使用許可を得るため関係部署に交渉して展示、観客を前にプレゼンテーションするなど一連の手続きも経験。自動扉を学生向け金融機関の出入り口に見立てて、通りかかった人々を顧客としてそっくり作品に取り込んでしまった学生は、「（アイデア実現のために）金融機関に掛け合いましたが許可が下りず、前日まで泣きながらの交渉でした」とプレゼンで説明し、「そのおかげで、新しい発想が生まれました」と笑顔で話した。

21日には後半の発表が行われ、両日とも、ツアー形式で見て回り、作品の感想を述べ合い、加藤講師の講評を受けた後は撤去されたが、「もっと長く展示して、見てほしい」と惜しむ声も聞かれた。

各所に作品を設置するために、施設の使用許可を得るため関係部署に交渉して展示、観客を前にプレゼンテーションするなど一連の手続きも経験。自動扉を学生向け金融機関の出入り口に見立てて、通りかかった人々を顧客としてそっくり作品に取り込んでしまった学生は、「（アイデア実現のために）金融機関に掛け合いましたが許可が下りず、前日まで泣きながらの交渉でした」とプレゼンで説明し、「そのおかげで、新しい発想が生まれました」と笑顔で話した。



### インドネシア・ジョグジャカルタ大学と共同国際セミナー(7/15)

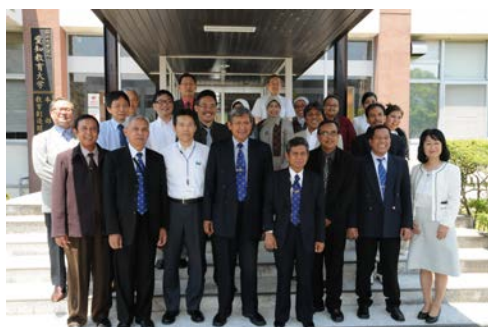
本学の協定校、インドネシアのジョグジャカルタ大学の訪問団が7月15日(金)に来学、共同国際セミナーが第一共通棟113教室で開催された。



本学と同大は2009年11月に学術交流に関する協定を締結。本学ではこれまでに海外の19大学・コンソーシアムと交流協定を結んでいるが、国際セミナーを開催するのは今回が初めて。セミナーのテーマを「グローバル社会での個性とアイデンティティ強化のための科学の役割」として、ジョグジャカルタ大学のロハマト・ワハブ学長、兵庫教育大学大学院の原田智仁教授による基調講演が行われ、教員や学生など70人余が参加した。

ワハブ学長は「グローバル社会での個性とアイデンティティ」と題して講演。インドネシアの地理や歴史、宗教観、価値観などを紹介し、それらを背景にして「インドネシアでは個性を重視した教育が大切にされています」と特徴を説明した。

原田教授は「教育課程の改訂と社会科学習の課程—資料活用の重要性—」について講演。ゆとり教育が大きな批判を受けて、学力向上のために教育課程が改訂された経緯を説明。さらに、「社会科教育では資料活用により、生徒自身が資料から何かを発見したり、判断したり



する。資料を読み解くことで社会に接近する。それには子どもたちが資料を自分で読み解き、判断する力が大切」と資料活用をめぐる課題などを指摘した。

質疑応答では、学生からインドネシアの教育ビジョンなどについての質問があり、熱心に討論が交わされた。

その後、訪問団一行は本学理事らとの昼食会、記念撮影に臨み、午後は小牧市立岩崎中学校で協同学習形式の授業参観を行うなど交流が図られた。



## 陸上部・中野弘幸さん、堂之下藍さんに学長表彰(7/19)

6月に開催された第95回日本陸上競技選手権大会で、男子400mで4位入賞した中野弘幸さん(保健体育専攻 院1年)と、女子走り高跳びで4位入賞した堂之下藍さん(初等・保健体育2年)の功績をたたえる学長表彰が、7月19日(火)午後、学長室で行われた。



スーツ姿の二人はやや緊張の面持ちで入室したものの、松田学長から「第4位に入賞され、本学の名誉を著しく高められました」などと賞状と奨励金を手渡わたされると、笑顔で受け取った。陸上部顧問の筒井清次郎教授(保健体育教育)、同コーチの木越清信講師(同)も同席し、二人のこれまでの頑張りを拍手でたたえた。



中野さんは8月12日から中国・深圳で開催される第26回ユニバーシアード競技大会への日本選手団にも選ばれていることから、松田学長から「国立大学から出場するのは二人だけで、大変名誉あること。おめでとうございます。ぜひ、頑張ってきてください」と激励され、「自己ベストの46秒23がだせれば、優勝できるはず。また、いいニュースを報告しにまいります」と健闘を誓った。堂之下さんは、「今度は3位、2位と順位を上げてください。期待しています」と松田学長からの言葉に、「頑張ります」と顔をほころばせた。

## ひらめき☆ときめきサイエンス(7/23)

大学の研究成果を児童・生徒に知ってもらうための科学イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」が7月23日(土)午後、第一共通棟で開かれ、地域の中高生と保護者、教職員やボランティアの大学生ら70人余が参加した。

「ひらめき」は日本学術振興会の委託事業で、青少年に科学への関心を高め、将来的な科学力の向上を図るのが狙いで、全国で約200のプログラム、本学ではうち3プログラムを実施。

この日は「世界の国ぐにを理解しよう～貿易ゲームで学ぼう!」をテーマに、水野英雄准教授(地域社会システム)、二井紀美子准教授(外国語教育)、高綱睦美講師(学校教育)が指導。前半は水野准教授が「なぜ貿易をするの?」「世界が豊かで平和になるために」と題して講義し、クッキータイムには参加者が教員や大学生とお茶やお菓子を取りながら交流。続いてメインの「貿易ゲーム」では、3人ずつのグループに分かれ、それぞれのグループに与えられた材料とはさみや定規などの道具を駆使して指定された“規格製品”を製造し、出来上がった製品を売り買いして、“貿易”を疑似体験した。東日本大震災の発生による部品供給のストップや様々な貿易規制



による影響を再現するような条件の設定で、生徒は社会や経済の変化に柔軟に対応する必要性を痛感。



「大学での勉強は自分で調べて考えること。他人の意見を聞き議論すること」とアドバイスされると、最初は遠慮気味だった中高生たちも、限られた材料や道具をグループ間で積極的にやり取りして売上をアップして、次第に貿易ゲームに夢中に。その後はグループディスカッション、修了式が行われ、参加者に「未来博士号」が授与された。

「ひらめき」のその他のプログラムとして、8月20日（土）と8月21日（日）は星博幸准教授（理科教育）による小中学生対象の「地層と化石を調べてみよう！—大地の成り立ちを野外観察から探る」、30日（土）は高橋真聡教授（同）による高校生対象の「ブラックホール探査計画」が行われます。

### トヨタ自動車見学(7/20)

企業活動と社会や経済の関係を知るために、「経済のグローバル化とそれに伴う製造業の動向」というテーマの下で7月20日（水）午後に学生、教職員合わせて121人がトヨタ自動車の元町工場とトヨタ会館の見学を行いました。

東日本大震災の影響は全国の製造業に及び、震災から2か月ほどはトヨタ自動車の工場の操業が停止しました。また、厳しい電力事情への配慮から、節電のために7月から9月は土日に操業、木金は休業という操業体制となっています。

このような厳しい状況の中でも、学校等からの見学の受け入れを行っているトヨタ自動車の社会貢献への熱意を感じさせる見学となりました。見学を通じて工場内での効率化された設備や工程、環境や働く人への配慮、安全対策について学ぶことができました。「カイゼン」といわれる提案制度による生産工程の改革が常に行われており、効率的な生産につながっていることや、ひとつのラインで複数の車種やグレードの車が生産されていることから技術水準の高さを知ることができました。体験コーナーでは実際に使用されている工具等を触って作業内容や技術を実感し、見学での説明を受けて、移動のバスの車中では質疑応答を行いました。



その後、トヨタ会館では様々な展示施設から自動車の仕組みやハイブリッド車等の環境への配慮、安全対策等について学びました。展示されている車に乗り、その品質を体感しました。また、ロボットによるトランペットの演奏を見ることができ、その技術力の高さを実感しました。

東日本大震災の発生のようにめまぐるしく移り変わる状況の中で、それを反映して的確に変化していくトヨタの進歩を見て、経済状況と企業活動の密接な関係について認識を新たにしました。

見学に当たり、トヨタ自動車の関係の皆様方に大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。なお、工場内の写真撮影は禁止されているため、トヨタ会館での見学の写真を掲載しています。（寄稿：地域社会システム教育 水野英雄准教授）

### 天文台一般公開(7/23)

本学天文台の「第64回一般公開」が7月23日（土）午後6時から、自然科学棟5階と屋上の天文台で行われた。



この日は台風一過の夏空が期待されたが、昼間は厚い雲に覆われた曇天。それでも午後5時ごろには青空が顔を出し、午後6時には天文ファンや子ども連れなど31人が訪れた。

冒頭の天文ミニ講座では、「宇宙の交通事故—天体の衝突—」と題して、澤武文教授（理科教育）が講演。地球と宇宙に漂うチリとの衝突＝流星群について、毎年同じ時期に起こる理由を動画を交えて解説。さらに、巨大な隕石の衝突でクレーターができること、6500万年前に恐竜が絶滅したのは巨大な隕石の落下が原因だったことなど宇宙での天体の衝突の例を挙げて、分かりやすく紹介した。



同7時から、宇宙立体映像用ソフト Mitaka を使った「3D 宇宙の旅」を上映。地球から出発し、太陽系、恒星系、銀河系へ旅を続けながら、銀河の合体による渦巻き銀河の衝突などの迫力ある映像で、参加者も“宇宙旅行”に満足そうだった。

3D 投影終了後は、天文台の 40 cm 望遠鏡で、西の空に輝く土星、土星の衛星タイタンやレア、夏の星雲・星団などを観測。また、この日は、天文愛好会「CORE」の有志による手作りプラネタリウム上映や、科学・ものづくり教育推進センターの佐々田俊夫研究員が所有する隕石の公開などもあった。



### 小中英語教育講演会シンポジウム(7/24)

7月24日（日）愛知教育大学にて、教育創造開発機構小中英語支援室主催の講演会が行われた。今回の講演会では、主に現職教員を中心に、教育委員会・大学生などを合わせて約130名が参加した。今年4月より小学校5、6年生に対して年間35時間の「外国語活動」が全面実施されるようになり、来年度からは中学校英語の授業時数は週当たり1時間増加する。この研修会は、小学校・中学校教員が授業を振り返る機会を提供し、地域の教員同士のゆるやかな連携を形成することを目的としている。



午前は、三つの分科会に分かれて、愛知県内の小学校・中学校の実践発表が行われた。午後からは、本学英語科の教員による豆知識のワークショップ（「英語教育でポピュラー音楽を生かせるか」「英語学と英語教育」「学習者のモチベーションを高める指導法」）など、大変内容の濃い講演会となった。東京外国語大学大学院教授の根岸雅史氏の講演では、「教えること、学ぶこと、できること、評価すべき

こと」というテーマで、興味深い話が聞けた。現職の先生方にとって、「どのような趣旨でテスト問題を作るのか」「生徒はテスト問題を授業中に練習しているのか」など、日頃の教え方、評価の仕方を自問自答するいい機会になったのではないだろうか。

参加者からのアンケートからは、「分科会の最後に15分程度の少人数で話し合いをしたが、それぞれの先生方からの意見が聞けてとても有意義でした」「来年度中学校教科書改訂に向けての、また、今の指導を振り返る指針としてのお話で、ぼやけていたものが少しはっきりしました」「分科会での発表はとても身近で、早速やってみようと思うことが多かったです」というような嬉しい感想が寄せられた。なお、今年12月23日、24日にも、本学で教員研修会を行う予定である。



（寄稿：小中英語支援室 小川知恵）

### 池の清掃(7/25)

本学構内の池の掃除が7月25日（月）に行われ、憩いの場所がよみがえった。

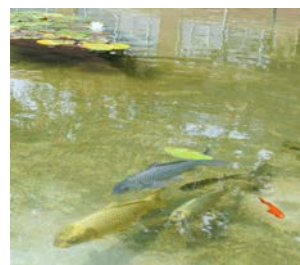


池の清掃は7月に実施される恒例の行事。当初は1週間早い19日に施設課の職員と、初めて学生有志参加で実施の予定だったが、あいにく台風の襲来で延期されたため、同日に職員と業者の手によって、附属図書館前、音楽棟前、第一共通棟中庭の3カ所の池で順次行われた。

附属図書館前と音楽棟前の池では、池にすむ魚を網ですくって仮の水槽に移してから、この1年で緑色に濁ってしまった水を排水した上で、ゴミを取り除き、壁面や底にこびり付いた藻をデッキブラシでゴシゴシと擦り落とすなどして清掃。再び水

を溜めて、魚を放した。

音楽棟前の池では、つがいの鯉に数十匹の子どもが生まれていたのも確認され、澄んだ水の中を親子で群れになって泳ぐ姿もはっきり観察できるようになった。強い日差しの中で、長靴や短パン姿で、びしょ濡れになりながら奮闘した職員たちは、きれいになった池で伸び伸びと泳ぐ鯉の子どもたちに目を細めて、満足そうだった。



### ドライミスト設置(7/26)



第一人文棟と第一共通棟をつなぐ通路にドライミストが7月26日(火)に設置された。通路の天井部分に取り付けた装置から浸透圧を利用して、水を微細な霧の状態にして噴射。通路を通過する人に降りかかった霧が蒸発する際に気化熱で涼しさを感じてもらおうと導入。今年度は、業者が試験的に無償で設置したため、経費は水道代の7円/日のみ。30度以上になる日中に、施設課の職員が手動で作動させ、この夏の節電に一役買うことになる。

### 花壇の整備(7/26,27)

第二福祉施設入口の花壇に7月26日(火)、色とりどりの花を咲かせた苗が植えられて、通り掛かる人の目を楽しませている。



花壇はこれまで雑草などが生えたままだったが、7月末のオープンキャンパスに来学する高校生や保護者らに「きれいな構内を見てもらいたい」と財務課の職員が整備に当たった。

今回、植えられたのはベゴニアと日々草。職員たちは夏の日差しの中で、赤やピンク、白、紫などの可憐な花を咲かせた苗を花壇に仮置きした後、一つ一つ、スコップで穴を掘り、苗入れて土を被せて植え込み、たっぷり水やりをして、作業

は完了。整備された花壇を視察した松田正久学長は「花壇に花が咲いていると、明るくなるね。ご苦労さまでした」と職員への労をねぎらった。

27日(水)のキャンパスクリーンデーには、本部棟前の車止めに設置されているコンテナにも花の苗が植えられ、オープンキャンパスの来場者を迎える準備が整えられた。



### 夏のランチコンサート(7/27)



音楽科の学生による「夏のランチコンサート」が7月27日(水)午後零時30分から、附属図書館2階のアイ♥スペースで開催された。

ランチコンサートは音楽教育講座の協力で同スペースで季節ごとに趣向を凝らして開かれる恒例のイベント。今回は音楽科の2年生と3年生の合唱選択者、総勢約70人が出演して行われた。



プログラムは、2年生による「花と一緒に」「My Own Road」、3年生による「明日へ」「新しい人に」、2・3年生合同での「大地讃頌」「見上げてごらん夜の星を」の6曲。先の4曲はそれぞれ、授業で取り組んだ合唱の集大成として披露し、これまでの練習の成果を発揮。学生らしい爽やかな歌声が会場に響き、真夏の“一服の清涼剤”のように観客を魅了した。ラストの2曲は、東日本大震災の被災地に思いを馳せて選曲し、震災からの復興を願って全員で合唱した。

次回は秋の開催で、大学院生によるプログラムが予定されている。

### キャンパス・トークを開催(7/27)



本学の「キャンパス・トーク」が7月27日(水)午後、大学会館2階の大集会室で、学生、教職員ら約70人が参加して開催された。運営会議を設け、学長が議長を務めるなどとして過去7回開催された従来の「全学会議」が昨年度をもって廃止となり、新たに学生の希望等に応じて開催し、より気軽に対話ができる会に衣替えして初めての開催となった。本学主催、愛教大C o N a n d E委員会(愛称・あいこね)共催で、あいこねの学生が司会を務めて、テーマごとに班に分かれて

議論するなど、運営に工夫が凝らされ、終始和やかな意見交換が行われた。

冒頭、松田正久学長が「新しい会をきちんと位置づけて、どうすればよりよい大学にできるかの工夫がなされ、FDが一層活発になり、広がっていくことを期待している」とあいさつ。事前に学生らから寄せられた質問に対して総務、教育、学生・連携、財務・施設の各担当理事が回答し、理解を求めた。

休憩を挟んでテーマセッションに移り、「交通マナーの問題」「教室等の使い方やゴミの問題」「教育の質保証」「窓口対応」の四つのテーブルに分かれて意見交換。学長、各理事、教職員も学生とともに各テーブルに着き、学生とともに問題の解決方法などを探った。熱心な議論の後、セッションごとの報告が行われ、交通マナーについて学生が「駐輪場の位置や侵入禁止区域の周知など課題が挙げられ、学生を含めた学内交通規制プロジェクトの立ち上げが提案された」と述べた。ほかのテーマでも、教職員のさまざまな視点からの話に学生が対話を通して認識を新たにする場面もあった。



また、参加した教職員からは「このように学生さんと大学の様々な課題について直接話し合うことができ、とても良い機会になりました」との感想の声も聞かれた。

最後に折出健二理事が「いい話し合いができたと思う。キャンパス・トークの申し合わせに従って協議内容は広く広報していくことになる。学生の参加を保証しつつこうした機会を一步一步前進させていきたい」と講評して約2時間のトークを終えた。

### キャンパスクリーンデー(7/27)



学内の一斉清掃「キャンパスクリーンデー」が7月27日(水)午後3時30分から、キャンパス一帯で行われた。

キャンパスクリーンデーは、7月30日(土)、31日(日)の「オープンキャンパス」に先だって、学内を全学できれいにしようと実施される恒例の行事。教職員や学生計854人が参加して、学内各所でゴミや落ち葉を拾い集めたり、汚れた場所の清掃をしたり、放置された自転車を整理したりと、真夏の“大掃除”に

汗だくで奮闘した。

また、前日の 26 日（火）には、留学生会館で留学生たちが一日早い清掃活動を実施。共用スペースを掃除し、デジタル放送への移行で不要になったアナログ放送受信テレビを一カ所に集め、処分する準備などをした。



今回のキャンパスクリーンデーで集まったゴミは、可燃ごみが 90ℓ入りゴミ袋 104 袋、不燃ごみが同 68 袋、枯れ草などが同 70 袋、自動車のタイヤやソファなどの粗大ごみがコンテナ（8 m<sup>3</sup>）1 台分。約 1 時間にもわたる清掃活動で、構内はスッキリ。オープンキャンパスの来学者を迎える準備が整えられた。



## 第 2 回ポイ捨て防止アクション(7/27)

学内に捨てられた煙草の吸殻を一掃する「第 2 回ポイ捨て防止アクション」が、7 月 27 日（水）午後 3 時半から行われたキャンパスクリーンデーに合流して実施されました。



実施の対象は、全学で、午後 4 時 30 分時点での集計結果は、625 本です。さらに、同 4 時 30 分以降に、各学系棟周辺、クラブ・サークル棟周辺の担当者から吸殻が持ち込まれ、それが 698 本。全体では 1323 本となります。きわめて残念な実態です。

暑い中、ご協力くださった職員・学生にお礼を申し上げます。

次回は、9 月 8 日（木）の午後零時半に本部棟北側に集まって、短時間の「アクション」を行います。ご多用とは思いますが、ほんの少しで結構ですので、ご協力いただければ幸いです。

なお、前回以後も吸い殻の視認された箇所には、再度ポスターを貼り直し、立ち入れないようにトラロープを設置するなど、最小限の対策は講じております。  
(安全衛生員会委員長 折出健二)

## オープンキャンパス(7/30,31)

平成 23 年度オープンキャンパスが 7 月 30 日（土）、31 日（日）に開催され、来場者数は両日合わせて 4403 人（速報値）と過去最高を記録した。

両日とも、午前 10 時から講堂での開催挨拶でスタート。午前 9 時ごろから、高校生や父母が続々と来場し、壁際には立ち見をする人の姿も多数あった。

開催挨拶に立った松田正久学長は、冒頭「大学とは、未来を照らす灯台」と、大学の役割をはじめ、本学の教員養成課程と現代学芸課程の違い、好調な就職率、少人数制の教育など本学の特徴を説明。



「愛知教育大学は、教員養成を主軸に、教養教育を重視する大学です。先生になりたい人は、ぜひ本学を受験していただきたい。今日は一日しっかりと愛教大を見ていってください」とアピールした。

ステージでのクラブ・サークル紹介では、男声合唱団、レクリエーション部、アカペラ

サークルが登場し、合唱曲やファイヤートーチのパフォーマンスを披露。ロビーでの質問コーナーでは、入試・教務課の





職員や現役学生が来場者からの相談に答えた。

また、第一・第二共通棟などでは課程・専攻・選修、コース別説明会が行われ、教員による説明や模擬授業、学生の発表などがあり、高校生や父母が詰めかけて多くの会場が満席になる盛況ぶりだった。図書館や生協など8施設の開放もあり、学内は終日、多くの参加者でにぎわった。



## 愛教人インタビュー



陸上部の中野弘幸さん（大学院教育学研究科保健体育専攻1年、安城市出身）が8月12日から中国・深圳市を中心に開かれる学生のオリンピック「第26回ユニバーシアード競技大会」に日本代表として出場します。種目は陸上競技の400mと4×400mリレー。東海3県からの出場は3人で、全国の国立大からは2人、本学では初となる快挙を成し遂げた中野さんに、ユニバーシアードにかける思いをインタビューしました。

### ◆ ◆ ◆ —ユニバーシアード出場が決まり、今の心境は？

来年のロンドンオリンピックに向けて、日本に中野という存在があることをアピールしたい。そのために、ユニバーシアードでは自分の力を試したい。決勝に残って表彰台に上るのが目標です。

### —ロンドン五輪も照準に入れて、世界のトップレベルと競い合う中野さんですが、陸上競技との出会いはいつ？

小学校3年の体力テストで、たまたま皆より走るのが早くて。走るのが面白いなって。他に勉強とか得意でなかったから（笑）。4年から陸上部に入り、6年で県大会の100mで7位に。中学2年の時、陸上専門の非常勤の先生の指導を受けるようになって、100mと200mで県大会優勝、全国大会準決勝に進んで、ぐんと成績が伸びました。その先生、愛教大卒だったんですよ。

### —その頃から、愛教大と縁があったわけですね。その後の活躍は？

陸上の名門の高校に進学しましたが、高校ではスランプでした。速くなりたいという思いばかりで、体重の増減を気にして、お菓子やジュースを口にしなかったり、日常を制限するようなストイックな感じでした。それが逆に、エネルギー不足になったのかもしれない。

### —それが、愛教大に入学してから好転。何がスランプ脱出のきっかけになったのですか？

高校と違って、とても自由な雰囲気でした。高校時代は先生の言うことが正しいと信じて、先生の言うとおりに。でも愛教では自分がやりたいことを練習に取り入れて自由に組み立てるようになりました。入学した時は100m、200mで勝てずに、辛かった。それを400mに延ばしたら、勝てたんです。ちょっと距離があるけど、勝てるほうがいいなど、1年の秋から400mに転向。オリンピックや何秒台をという目標でなく、昨日より速く走ることが、とにかく楽しいです。僕は走ることにしか取り柄がないので、他に認めてもらえるもの、誇れるものが“走ること”なんです。



### —陸上以外の趣味や好きなことは？

水木しげるの漫画。気分転換にいいです。あと、食べることも。食事管理は自分でしていますが、お菓子とか食べたい物＝体が欲しがっている物を食べています。でも、一番好きなことは“走ること”ですね。

### —本当に走ることが好きな中野さんですが、普段はどんな生活を？

陸上の練習は週5日、1日3時間。2日間は体を休めますが、他のことをしていても、陸上に役立つかなと常に考えてしまいますね。アルバイトはラーメン屋さんで週に3、4日のペースで



すが、今年は遠征でアルバイトで稼ぐ時間が少ない。遠征費は自腹なので、一部を大学が応援してくれると助かるんですが（笑）。

—確かに、愛教大は私大に比べて設備などサポートが万全でなくて、申し訳ないです…。

でも、ないから適応しようとする（笑）。何とかできますから。大学生らしく工夫するのも先生の卵としては大切だと思っています。

—なるほど。将来の夢は、陸上選手、それとも先生？

陸上選手としては、来年まで。大学院修了できっぱりと引退するつもりです。だからこそ今、頑張りたい。夢としては選手より、中学の先生になって10年後、20年後も教えたいですね。

—最後に、間近に迫ったユニバーシアードへの意気込みを。

世界クラスの大会は今回が初。それでも海外遠征などで日本のトップレベルの選手と時間を共有する機会も増えたので、物おじしなくなりました。なので、個人では決勝に残って表彰台に上りたいですね。体調も至って良好ですから、けがをしないように気をつけて実力を発揮したいです。西三河で予選落ちだった選手が世界大会に出ることができる、そんな姿を見て応援してもらえると嬉しいです。

—愛教大あげて、応援しています。頑張れ～NAKANO！

（聞き手：法人運営課 小林則子）



## お知らせ・報告・投稿

### 催しもの案内

- ◆第65回愛知教育大学天文台一般公開～子どものための講座と観望会  
8月6日（土）18：00～20：30（入場無料、申込不要、雨天は講座と上映会）  
自然科学棟5階、屋上天文台  
18：00 子どものための天文ミニ講演会「月はどうして形と位置を変えるの？」  
19：00 観望会「月の写真撮影にチャレンジ！」  
19：30 Mitakaによる3D映像上映会「3D宇宙の旅ー太陽系ー」  
詳細は天文台ホームページを参照。  
<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/index.html>
- ◆愛知教育大学管弦楽団 第75回定期演奏会  
8月7日（日）17：45開場、18：30開演  
愛知県芸術劇場コンサートホール  
問い合わせは、団長・竜野さん TEL090・3441・3981

### 編集後記

間もなく夏休み。この夏は、本学では東日本大震災被災地への復興支援学生ボランティアの派遣、陸上部の中野弘幸さんのユニバーシアード出場など、新しい動きが展開されます。4年生は教員採用試験や就職試験の結果待ちという人も多いと思いますが、どうぞ学生の皆さん、いろいろ体験して、自分の目で見て、感じて、考えて、それぞれに有意義な時間を過ごしてください。しばらく学内は静かになりますが、元気な姿でまたキャンパスに戻ってきてくれるのを教職員は楽しみに待っています。（K）

### 投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二